

2026 年度

愛知学院大学大学院

心身科学研究科

健康科学専攻

後期一般入学試験問題

解答および解答例・出題の意図

博士後期課程 春季入学試験

一般入試（2026年1月24日実施）

【専修科目】

健康増進科学研究

〈採点時の評価ポイント〉

今回の受験生は、学校保健活動の実務を担当している養護教諭であり、学校保健活動の目的を、日頃どの程度理解して活動しているかを評価する。

また、この目的を達成するための具体的な方法とその効果についても、どの程度科学的根拠を意識して活動しているかを評価する。

なお、具体的な方法については、現在実施されている方法だけでなく、自身が実施してみたいと考えている方法も記載してよい。

〈出題の意図〉

今回の受験生は学校保健を専門分野としている。そのため、学校保健活動の現状と課題を確認することで、後期課程入学後の研究の方向性が明確となってくる。

健康増進科学研究

〈採点時の評価ポイント〉

次のいずれかについて論点として述べていること

1) 健康課題

サルコペニア、フレイル、転倒、要介護、NCDs（生活習慣病）、医療費増大

2) 筋力の影響

歩行能力低下、ADL低下、認知機能低下、転倒リスク上昇、
転倒予防、要介護予防、QOL向上、医療・介護費抑制

〈出題の意図〉

本設問は、超高齢社会における健康課題を理解し、筋力低下が転倒・要介護・生活機能低下などの問題に及ぼす影響を科学的に説明できる力を評価するとともに、筋力向上が自立生活の維持、介護予防、QOL向上、医療・介護費抑制に果たす社会的意義を多角的に考察できる能力を測定することを目的とする。健康科学の専門性を社会課題の解決に結びつけて考える思考力の育成を意図とする。

【外国語】

英語 I

〈解答および解答例〉

・英文和訳（採点は本文のみ）

（題名）地域在住高齢者における健康関連 QOL の縦断的軌跡とその予測因子

（本文）SF-36 は全 36 項目からなる簡易健康調査票で、健康関連 QOL の評価において一般に広く活用されている。しかし、一般集団を対象とした SF-36 の縦断的研究は少なく、特に睡眠の質を含む生活習慣要因との関連性を検討した研究は極めて少数である。本研究は、2007 年から 2018 年にかけて、60 歳以上の日本人 910 名（4,799 件）を対象に、SF-36 の下位項目について縦断的分析を実施した。潜在クラス混合モデルを用いて、各項目に明確な軌跡パターンが示された。特に、身体的役割（RP）と情緒的役割（RE）の両項目は、急速に低下するケースや、低下が乏しいケースなど複数のパターン推移を示した。さらに、ベースラインスコアが類似している 2 つのパターン（急速低下群と非低下群）を区別する予測因子を検証した。結果、開眼片足立ちテストの成績不良と病スコアの上昇は、それぞれ RP と RE の低下を予測した。特に重要なのは、ピッツバーグ睡眠品質指数（PIS）で測定した睡眠の質で、特に合計スコアと構成要素 7（日中の機能不全）が、その後の RP と RE の低下と関連した。一方、睡眠タイミングの変数（就寝時刻、入眠時刻、起床時刻）は予測因子ではなかった。これらの知見は、良好な睡眠の質を維持することが、将来の日常的な身体的および感情的な役割の制限を防ぐのに役立つ可能性があることを示唆している。

〈出題の意図〉

・本設問は、健康寿命と QOL の関係、特に「睡眠の質」の重要性を扱った英語学術論文（要約）を正確に読み解く力を評価し、大学院レベルに求められる英文読解力と学術的理

〈出典情報〉

OSHIMA, Ryoga, et al. Longitudinal trajectories of health-related quality of life and their predictors among community-dwelling older adults. *Scientific Reports*, 2025.

doi:10.1038/s41598-025-30307-8

英語Ⅱ

1.

〈解答および解答例〉

学校は、若者が知識、自己調整力やレジリエンスといった社会情動的スキル、批判的思考力を身につけるために不可欠な役割を果たしています。これらは、将来の健康の基盤となるものです。教育を受け、安全で支援的な環境に取り囲まれることによって、より健康になることができます。健康状態が良いことは、中途退学率の低下、教育到達度や学業成績の向上、さらには雇用や生産性の向上にも結びつきます。

〈出題の意図〉

論文（文章）を読む際に必要なのは、その論文（内容）の内容を早く正確に把握することです。言い換えれば、自分なりの要約を作成できるかどうかだと考えています。今回の英語問題も逐語訳は求めています。内容を早く正確に把握し、日本語で表現する能力を評価しています。

2.

〈解答および解答例〉

文章内の重要な語句が正確に日本語訳されて適切に使用されているかどうかで、評価します。

例)

sexually transmitted infections (STIs) : 性感染症

unintended pregnancies : 望まない妊娠

gender-based violence (GBV) : ジェンダーに基づく暴力（性暴力等）

gender inequality : ジェンダー不平等（男女格差）

their sexuality and relationships : 自分のセクシュアリティや人間関係

〈出題の意図〉

論文を執筆する際には、すでに公開されている論文や書籍からの引用が必要です。問題1の発展形として、英語の文章に書かれている内容を、早く正確に把握し、自分なりの意見にまとめる能力を評価しています。これらは研究者には必須の能力です。

〈出典情報〉

問題 1 :

WHO guideline on school health services

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240029392>

問題 2 :

International technical guidance on sexuality education:

an evidence-informed approach

<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000260770>

英語 II

〈解答および解答例〉

問 1

本研究は、サルコペニアが肥満の有無にかかわらずインスリン抵抗性および糖代謝異常と関連するかを明らかにすることを目的とした横断研究である。20 歳以上の非妊娠者 14,528 名を対象に、筋量、肥満度、インスリン抵抗性および糖代謝指標を用いて解析を行った。その結果、サルコペニアは肥満者・非肥満者のいずれにおいてもインスリン抵抗性の増大と有意に関連しており、さらに肥満者では血糖異常とも関連していることが示された。また、これらの関連は 60 歳未満の対象者においてより強く認められ、若年～中年期における低筋量が将来的な糖尿病発症リスクを高める可能性が示唆された。本研究は、筋量低下が糖代謝異常の早期指標となり得ることを示すとともに、サルコペニア肥満の予防が重要な公衆衛生課題であることを明らかにしている。

問 2

1) 研究デザインと対象者の特徴

本研究は米国民健康栄養調査 (NHANES III) のデータを用いた横断研究であり、20 歳以上の非妊娠者 14,528 名を対象として解析が行われた。

2) サルコペニアおよび肥満の判定指標

サルコペニアは生体電気インピーダンス法によって測定された筋量に基づいて判定され、肥満は体格指数 (BMI) を用いて評価された。

3) 年齢による影響

サルコペニアとインスリン抵抗性および糖代謝異常との関連は、60 歳未満の対象者においてより強く認められた。

問 3

本研究の限界として、横断研究であるため、サルコペニアと糖代謝異常の因果関係を明確に示せない点が挙げられる。また、筋量の測定が推定法であり誤差の可能性があること、運動習慣、食事、病気、薬の影響を十分に調整できていない点も課題である。

因果関係を検証するには、非糖尿病者を対象に筋量・筋力・体脂肪・運動量・血糖状態を

測定し、数年間追跡する前向き調査が有効である。さらに、サルコペニアの人を対象に運動や食事の指導を行う介入研究を実施し、筋量の増加が血糖やインスリンの状態を改善するかを評価すれば、因果関係をより強く示すことができる。

〈出題の意図〉

本設問は、英語で書かれた学術論文を正確に読解し、研究の目的・方法・結果を整理して日本語で要約する力を評価するとともに、専門分野の内容を英語から適切に理解する実践的英語運用能力が問われる問題となっている。また、研究デザインについて正しく理解しているかを問うとともに、疫学・健康科学の視点から、研究目的に沿った評価項目・対象設定を具体的に考えられるかを総合的に評価する。

〈出典情報〉

出版社：PLoS One

著者名：Preethi Srikanthan, Andrea L Hevener, Arun S Karlamangla

タイトル：Sarcopenia exacerbates obesity-associated insulin resistance and dysglycemia: findings from the National Health and Nutrition Examination Survey III, 2010; 5(5): e10805.

doi: 10.1371